

旭川龍谷高等学校 授業シラバス

教科名	科目名	単位数	学年	必/選	コース・フィールド
国語科	言語文化	2	1	必	特進・文武両道
科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を伸ばすとともに、自分の考えを深めることができるようにする。言葉の価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、言語文化としての担い手として自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科書	言語文化(数研出版)	副教材等	学ぶぞ古文と漢文 新装版(尚文出版) 古文単語 315(桐原書店)		

1. 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を伸ばすとともに、自分の考えを深めることができるようにする。</p> <p>(3)言葉の価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、言語文化としての担い手として自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)，Y(思考・判断・表現)，Z(主体的に学習に取り組む態度)

学習内容	文法事項	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
					X	Y	Z
○古文基礎 古語と現代語	歴史的 仮名遣い	4	4	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○		
○説話 「児のそら寝」	十品詞 用言の活用	8	5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。		○	
○古文基礎 「用言の活用」	係り結び	8	6	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○		
○漢文基礎 「漢文入門」	漢文訓読法	8	7・8	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	○		
○説話 「絵仏師良秀」	陳述の副詞 助動詞 打消・過去・完了・断定	4	9	歴史的仮名遣いや動詞・形容詞について十分理解している。「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	
○随筆『徒然草』 「つれづれなるままに」	推量・推定・ 反実仮想	2	10	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして構成を整理しようとしている。	○		○
「ある人、弓射ることを習ふに」	推量・推定 ・反実仮想	4	10	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。積極的に『徒然草』と自分との接点を探し、学習課題に沿って発表に取り組もうとしている。		○	○

学習内容	文法事項	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
					X	Y	Z
○物語 伊勢物語 「芥川」「筒井筒」	尊敬・受身・ 使役系 その他	4	11	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	
○和歌 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	和歌の修辞	4	12	「読むこと」において、修辞法をふまえて作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。		○	
○故事 「漁夫の利」 「矛盾」	否定・二重 否定・疑問・ 不可能	3 3	1	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	
○史伝 「管鮑之交」 「鶏口牛後」	使役・比較 選択・否定 疑問・仮定 反語	4	2	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	
○漢詩 「山中問答」 「送元二使安西」 「登高」	詩形・構成 押韻・対句	4	3	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。		○	